

平成19年度

通常総会

平成19年5月10日（木）15:20～16:00

愛知厚生年金会館

総会次第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 本部役員挨拶
- IV. 議 事
 1. 平成18年度事業報告
 2. 平成18年度決算報告
 3. 会計監査報告
 4. 平成19年度役員改選結果報告
 5. 平成19年度役員
 6. 平成19年度事業計画（案）
 7. 平成19年度予算（案）
 8. その他
- V. 閉会の辞

（社）情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTT DATA伏見ビル内

TEL : (052)204-4517 FAX : (052)204-4783

E-mail : ipsj_tsj@tcp-ip.or.jp

1. 平成18年度事業報告

1.1 支部総会

平成18年5月17日(水) 愛知厚生年金会館
参加者285名 (委任状260名を含む)

1.2 評議員会

第1回 平成18年 5月17日(水) 愛知厚生年金会館 参加者22名
第2回 平成18年12月12日(火) 中電 東桜会館
第3回 平成19年 5月中旬予定 (平成19年度支部総会開催日)

1.3 幹事会

第1回 平成18年 4月 4日(火) 中電若竹クラブ 参加者11名
第2回 平成18年 6月12日(月) 中電若竹クラブ 参加者 7名
第3回 平成18年10月 4日(水) 中電若竹クラブ 参加者 8名
第4回 平成18年11月29日(水) 中電若竹クラブ 参加者 7名
第5回 平成19年 1月16日(火) 中電若竹クラブ 参加者 7名

1.4 電気関係学会東海支部連合大会 共催1回

- ・期 日：平成18年9月28日(木)、29日(金) 2日間
- ・会 場：岐阜大学
- ・主担当学会：電子情報通信学会東海支部

・情報処理学会東海支部からの委員選出

副委員長：椎野 努 (愛知工業大学)
委員(4名)：佐藤 雅弘 (中部電力)
清水 武 (デンソーアイテック)
金子 美博 (岐阜大学) 開催校兼任
和田 幸一 (名古屋工業大学)
幹事(4名)：片山 喜章 (名古屋工業大学)
高木 一義 (名古屋大学)
菱田 隆彰 (愛知工業大学) 事務局兼任
山村 毅 (愛知県立大学)
事務局：菱田 隆彰 (愛知工業大学)
中谷 正美 (情報処理・東海支部)

・シンポジウムのテーマと世話人(情報処理学会関係分)

- ・テーマ：「自然言語処理技術とその応用」
世話人：河合敦夫(三重大学)
- ・テーマ：「大規模画像・映像データの認識・理解・検索」
世話人：村瀬 洋(名古屋大学)

(共催：名古屋大学情報系COE「社会情報基盤のための音声・映像の知的統合」)

- ・無料公開特別企画「理科系教育の現状とその問題点について」講演会と研究施設見学会
(共催：電気関係学会東海支部 理科系教育支援ワーキンググループ)
- ・企業展示 12社

一般講演 60部門590件(昨年度は58部門 637件)
オーラルセッション：53部門 512件
ポスターセッション：7部門 78件
参加登録者数：合計1,131名 (懇親会参加者60名を含む)

特別講演者： 1名
シンポジウム： 42名（世話人，座長，講演者）
一般講演者：590名（会員456名、非会員134名）
座長：101名
一般参加者：291名
懇親会：60名
その他：実行委員46名

幹事会

- 第1回 平成18年4月12日（水）第1回実行委員会に統合
議題：開催日程・実施概要他
第2回 平成18年7月28日（金）東桜会館 1階第2会議室
議題：大会プログラム編成
第3回 平成18年9月29日（金）岐阜大学 VSL3階会議室
議題：運営上の反省点および来年度への申し送り事項

実行委員会

- 第1回 平成18年4月12日（水）中部電力（株）若竹クラブ3階会議室
第2回 平成18年8月9日（水）名古屋グリーンホテル 2F 大会議室
第3回 平成19年1月31日（水）愛知厚生年金会館 奨励賞表彰式・懇親会

大会の特記事項及び主な反省事項

選考数（奨励賞+B賞+IEEE学生奨励賞）合計：35名（10+16+9）
審査希望申請者数 合計：346名
情報処理学会 受賞者 4名
連合大会奨励賞 林 由紀子 君（名古屋大学）
" 久原 政彦 君（中京大学）
" 川島 洋介 君（名城大学）
" 望月 優介 君（中京大学）
（昨年度は選考数42名，申請者数410名，情報処理学会6名選考）

1.5 講演会 7回（主催7回）

(1) 平成18年5月17日（水）

講師：森下 俊三 氏（西日本電信電話株式会社 代表取締役社長）

演題：「IPブロードバンド通信の時代を迎えて」

於：愛知厚生年金会館

参加者 33名

コメント：光ブロードバンドの動向，および，これからのユビキタス社会を支える次世代ネットワークとユビキタスで実現されるサービスについて，通信事業者の視点から説明頂いた。光ブロードバンドは日本がダントツに進んでいることや，遅れている米国は規制緩和を行いながら，電話・インターネット・映像配信のトリプルプレイに移動通信を加えたクワトロプレイの光ブロードバンドを早く引こうとしていること，また，現在のインターネットは実時間性や信頼性の確保が難しく品質を上げようとする高価になってしまうことなど，普段何気なく使っているインターネットの動向や課題を把握できた。後半では，今後のユビキタス社会に求められる新サービスの提供や，固定電話網のマイグレーションなどを目的とした次世代ネットワークNGN（Next Generation Network：平成20年頃からサービス開始予定）について，考え方を中心に説明頂いた。ユビキタスの具体例としては，農水省が長崎県五島市福江を最初のモデル地区として進めているe-むらづくり計画（IT活用による農山漁村の活性化）と，各地方自治体と進めている通勤が困難な高齢者・身障者・母子家庭などの方でもネットワークを介して在宅で社会参加できるようにしたデジタル地図工房を紹介頂いた。世の中がネットワークの高度化で更に大きく変わろうとしていることが実感できた講演だった。

(2) 平成18年7月26日(水)

講師：佐藤 淳氏 (名古屋工業大学大学院 情報工学専攻 (おもひ領域) 教授)

演題：「多視点幾何から広がる映像メディア技術」

於：名古屋工業大学 6号館11階 大会議室

参加者 24名

コメント：カメラ画像を用いた映像メディア技術は近年大きく進展し、ITS、医療福祉、アミューズメントなど多くの分野でその技術が実用化されつつある。特に近年では空間中に遍在する多数のカメラを協調させることにより、従来にはなかった付加価値の高い映像メディアシステムが実現されつつある。本講演では、多数のカメラを協調させる上で不可欠な多視点幾何の最新理論について解説し、これを複合現実感、プロジェクタカメラシステム、自動車の高度知能化、ロボットの協調制御などに応用する方法について述べた。講演では、多視点幾何の最新理論を応用した複合現実感の例として、有名なSF映画を身近に体験できる、ライトサーベルを用いた仮想戦闘システムや、プロジェクタカメラシステムの例として、プロジェクタとカメラを一体化させた装置で、壁面上にあたかもそこに文字や絵が描かれたように見せるシステムなどが、ビデオ映像とともに紹介された。高度な理論に裏打ちされた分かりやすいシステムのデモを通して、専門家でない聴講者も非常に興味を持って受講することができた。また、複雑な計算を行っているにも関わらず、通常のPCレベルのシステムによって実時間で全ての処理をまかなうことができることも説明された。現在、さまざまな分野で仮想現実などの映像メディア技術が導入されており、その応用はますます発展していくものと思われる。今回の講演を通して、その一端を理解することができた。

(3) 平成18年10月23日(月)

講師：中本 幸一氏 (兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 教授)

名古屋大学大学院情報科学研究科附属 組込みシステム研究センター特任教授)

演題：「PCソフトウェア技術が組込みソフトウェアにもたらすもの」

於：刈谷市産業振興センター 604・605会議室

参加者 30名

コメント：汎用OSが組込みソフトウェアに対してもたらすこと、および、それへの今後の付き合い方を、NEC勤務時代に携帯電話へLinuxを使った経験などをもとにご講演頂いた。組込みシステムは社会インフラの重要な構成要素のひとつになってきており、インターネットやPC技術、IT技術などとの接点が必要になることや、ソフトウェアの生産性向上、開発人材の確保・育成などの面でも汎用OSの利用は大きなメリットがあるとのことであった。携帯電話のソフトウェアは通常のものでも500~600万行、高機能版では900万行超にもなるとのことで、確かにLinuxであれば、ミドルウェアのほか、ブラウザやメール、PDFビューワなどのアプリケーションを他から持って来られ生産性が向上することが実感として理解できた。一方で、ブート時間の短縮や無線通信に必要なリアルタイム処理の実現などの課題解決が必要であり、苦勞されている様子もうかがえた。これら携帯電話のソフトウェア開発での事例は聴講者の関心も高く、コストへの影響、モデルベース開発やアプリケーション検証ツールの有無、ソフトウェアの改修方法など、活発な質疑がなされた。組込みシステムでの汎用OS利用がますます活発になることが予感できる講演だった。

(4) 平成18年11月14日(火)

講師：手嶋 茂晴氏 (名古屋大学大学院情報科学研究科

附属組込みシステム研究センター ディレクター/特任教授)

演題：「組込みシステムの研究・教育拠点を目指して

—名古屋大学組込みシステム研究センター—

於：東桜会館1F 第2会議室

参加者 9名

コメント：組み込みシステムの技術動向、また、世界と日本における研究動向を概説し、組込みシステム研究センターの目標と役割について説明された。特に、車載オペレーティングシステムに関する共同研究、社会人向け組み込み技術者育成コース、学生向けIT技術者育

成コースの3点について、研究・教育への取り組みの内容を具体的にご講演いただいた。研究センターとしての評価と今後の発展、企業との共同研究の考え方、IT技術者育成コースと企業との関係、また、組み込みシステム分野における日本、名古屋地区への期待などについて、参加者を交え活発な質疑応答が行われた。

(5) 平成18年12月12日(火)

講師：瀬川 修 氏 (中部電力株式会社電力技術研究所 研究副主査)

演題：「Webアノテーション(注釈記入)と情報共有技術」

於：東桜会館1F第2会議室

参加者 46名

コメント：閲覧中のWebページに対して閲覧者が自由にアノテーション(annotation:注釈)を付与し、ネットワークを介して閲覧者同士がアノテーション情報を共有できるハイブリッドP2P型の情報共有技術について紹介があった。講演では、開発したシステムのデモを交えながら、同技術がProxyサーバを設置する方式に比べてシステム構築や運用が容易であることや、閲覧者(構成ノード)の増減に柔軟に対応でき、かつ構成ノードやネットワーク障害などにも堅牢であることなどについて、分かりやすく説明された。同技術は、企業内や学内におけるグループウェアツールとしての利用をはじめ、Webデザインのレビュー、eラーニングなど幅広い利用が期待できるとのことであり、聴講者からも同システムの提供を望む声が寄せられていた。

(6) 平成19年1月18日(木)

講師：横田 幸雄 氏 (愛知県立大学情報科学部 教授)

演題：「ウニ卵黄タンパク質の研究とICT」

於：愛知県立大学学術文化交流センター 小ホール

参加者 40名

コメント：生物学の分野におけるコンピュータの利用についてご講演いただいた。DNAは、遺伝子情報を担うもので、医療、工業などの分野で利用されているほか、個人識別などにも用いられている。このDNAの塩基配列を決め、どこにどのような遺伝子があるのかを明らかにすることがいわゆるゲノム解析と呼ばれるものである。DNAの塩基配列の決定は、(1)DNAの切断(断片化)とその増幅、(2)各断片の塩基配列決定、(3)各断片のつなぎ合わせ、といった手順で行われるが、DNAの塩基配列は10億以上(人の場合、ヌクオチド数は約33億)に及ぶことがあり、また、現在用いられている方法では一度に処理できるDNAの断片の大きさは数百程度の塩基配列に限定されるため、各断片をつなぎ合わせて全体の塩基配列を得るためには、コンピュータの使用が不可欠とのことであった。講演の後半では、ウニ卵黄タンパク質が、約5000塩基ほどからなること、卵黄果粒の酸性化によって分解されること、ウニの腸内で合成されること、アミノ酸配列の解析研究をする上で非常に扱いやすい素材であることなどの説明があり、これを用いた数々の研究成果を紹介していただいた。そして、ここでもコンピュータが非常に大きな役割を果たしていることを強調された。情報科学以外の分野でコンピュータが使われていることを強く実感した。

(7) 平成19年2月7日(水)

講師：萩原 学 氏 (独立行政法人産業技術総合研究所 物理解析チーム 研究員)

演題：「量子誤り訂正符号の構成法」

於：愛知工業大学本山キャンパス 3F大学院講義室1(304)

参加者 14名

コメント：量子コンピュータが実現に向けて着実に歩を進めている昨今、量子を対象とした符号・暗号技術は非常に注目を集めている。本講演では量子誤り訂正符号の構成法に関して、主要な手法とその理論的背景および最近の研究成果をご講演いただいた。特に擬似巡回LDPC符号を量子符号の枠組みで実現する組合せ論的手法を説明された。量子符号の分野においても、古典的な符号理論が応用されているが、量子の固有の問題点を解決する必要があることや、組合せ論的な理論を適用することで、効率の良い符号の構成が可能であることなどを、研究成果をまじえて解説していただいた。未解決の問題もあり、研究者の活躍の場が多く残されている分野であることがうかがえた。

1.6 研究会他 9回(協賛8回、後援1回)

- (1) 平成18年8月8日(火)～8月10日(木)
名古屋大学テクノフロンティアセミナー ―ふれてみよう、電子と情報の最先端―
(後援、主催：名古屋大学工学部 (財)国際コミュニケーション基金
共催：電気学会東海支部)
- (2) 平成18年9月25日(月)、26日(火)
情報学ワークショップ2006 (第4回)
(協賛、主催：愛知県立大学情報科学部 共催：静岡大学 情報学部)
- (3) 平成18年10月7日(土)
JASI中部支部 [特別企画] 国際シンポジウム
「社会情報の今後 ―ユビキタス・ネットワーク社会への進展 とともに―」
(協賛、主催：日本社会情報学会 (J A S I) 中部支部)
- (4) 平成18年10月24日(火)
高信頼性ソフトウェア 講演会
―組み込みで主導する日本のソフトウェア技術
(協賛、主催：名古屋市工業研究所 共催：システム技術研究会)
- (5) 平成18年12月7日(木)～8日(金)
第4回「社会情報基盤のための音声・映像の知的統合」シンポジウム
(Intelligent Media Integration for Social Information Infrastructure)
(協賛、主催：名古屋大学情報系COB委員会)
- (6) 平成19年2月2日(金)
専門講習会「最先端ディスプレイ技術」
於：ローズコートホテル
(協賛、主催：電子情報通信学会、同東海支部)
- (7) 平成19年2月20日(火)～22日(木)
平成18年度技術融合化シンポジウム
(協賛、主催：名古屋市工業研究所 共催：(財)名古屋市工業技術振興協会)
- (8) 平成19年2月22日(木)
市民セミナー「ワインと健康」
於：東桜会館 集会室
(協賛、主催：電気学会東海支部)
- (9) 平成19年3月29日(木)
オープンソース講演会「―組み込みシステムを先導するオープンソースの取組み―」
於：名古屋市工業研究所 管理棟 3階 第一会議室
(協賛、主催：名古屋市工業研究所)

1.7 平成18年度学生研究発表会助成 (1件)

- (1) 発表会名 「第10回 東海地区音声関連研究室 修士論文中間発表会」
実施日：2006年8月7日(月) 会場：岐阜大学
参加者：計128名
(教員26名、大学院生96名(うち発表者44名)、ポスドク・研究生6名)

1.8 理科系教育支援

「理科系教育支援ワーキンググループ」の活動

東海地区電気関係学会

理科系教育支援ワーキンググループ

共同委員長 上原秀幸(電子情報通信学会東海支部), 片山喜章(情報処理学会東海支部)

・電気関係学会東海支部連合大会 *** 無料公開特別企画 ***として開催

テーマ: 「理科系教育の現状とその問題点について」

日時: 平成18年9月29日(金) 14:00 - 17:00

場所: 岐阜大学(岐阜県岐阜市柳戸 1-1)

参加者 40名

座長: 荒井英輔氏(前 電子情報通信学会 東海支部長)

講演: (1) 「理科系教育の現状とその問題点」

牛田憲行氏(愛知教育大学)

(2) 「電子情報通信学会における子供の科学教室活動への取組み」

井戸せい子氏(電子情報通信学会)

(3) 「理科教育支援に対する企業および学会からの取組み」

松ヶ谷和沖氏(株式会社 デンソー)

(4) 質疑応答/パネル討論

施設見学: (1) バーチャルシステムラボラトリー施設

(2) 太陽電池の開発研究施設

主催: 電気関係学会東海支部(電気学会東海支部、照明学会東海支部、日本音響学会東海支部、電気設備学会東海支部、IEEE名古屋支部、映像情報メディア学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部)

共催: 東海地区電気関係学会 理科系教育支援ワーキンググループ

1.9 学生論文奨励賞

選定委員会: 平成19年4月18日(水) 若竹クラブ

表彰式: 平成19年5月10日(木) 於: 愛知厚生年金会館

授賞者: 板井 陽俊 君(いたいあきとし) (愛知県立大)

殷 奕 君(いんえき) (名工大)

鈴木 秀和 君(すずきひでかず) (名城大)

土田 元 君(つちだげん) (静大)

山代 大輔 君(やましろだいすけ) (名大)

笠浩 一朗 君(りゅうこういちろう) (名大)

(五十音順)

2. 平成18年度決算報告

2.1 収入の部

(単位：円)

平成18年4月1日～平成19年3月31日

収入科目	平成18年度	
	予算額	決算額
交付金	3,020,000	3,020,000
(支部交付金)	2,540,000	2,540,000
(賛助金還元)	480,000	480,000
利息	50	1,850
前年度繰越金	2,324,421	2,324,421
計	5,344,471	5,346,271

2.2 支出の部

支出科目	平成18年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,600,000	1,415,718
年次総会費	470,000	416,831
講演会・研究会費	280,000	248,522
支部連合大会費	300,000	285,221
支部表彰費	140,000	159,252
支部助成金費	120,000	40,560
会議費	290,000	265,332
2. 事務費	1,890,000	1,836,137
通信費	30,000	24,150
消耗品費	30,000	5,482
郵便運搬費	10,000	9,058
雑費	30,000	8,247
事務委託費(法人契約)	1,790,000	1,789,200
3. 予備費	1,854,471	-
4. 次年度繰越金		2,094,416
計	5,344,471	5,346,271

3. 会計監査報告

4. 平成19年度支部役員改選結果報告

選挙期間：平成19年2月16日～平成19年3月15日

A：投票用紙発送数 1, 310件（1月現在会費納入済の正会員および名誉会員）

B：投票数 337票

C：投票率 [B/A] 25.7%

D：開票結果

役職	候補者氏名	得票数
支部長	はせがわまさし 長谷川全司	314
副支部長	いわた かつら 岩田 彰	315
幹事	あらき みつひろ 荒木 円博	301
幹事	ないとう ひろし 内藤 博	292
幹事	ほんたに ひでかた 本谷 秀堅	296

退任者 支部長 椎野 努（愛工大）
幹事 片山 喜章（名工大）
幹事 佐藤 雅弘（中電）
幹事 清水 武（デンソーアイテック）

留任者 幹事 高木 一義（名大）
幹事 菱田 隆彰（愛工大）
幹事 山村 毅（愛知県立大）
監事 阿部 圭一（愛工大）

5. 平成19年度支部役員

(*新任、**再任、無印2年目)

役員	氏名	所属
支部長	* 長谷川全司	東邦ガス情報システム株式会社
副支部長	* 岩田 彰	名古屋工業大学
幹事	* 荒木 円博	株式会社豊田中央研究所
	高木 一義	名古屋大学
	* 内藤 博	中部電力株式会社
	菱田 隆彰	愛知工業大学
	* 本谷 秀堅	名古屋工業大学
	山村 毅	愛知県立大学
監事	阿部 圭一	愛知工業大学
評議員	青野 雅樹	豊橋技術科学大学
	* 浅井 博次	岐阜県情報技術研究所
	* 有本 昇喜	㈱富士通中部システムズ
	* 宇佐見庄五	名城大学
	* 太田 剛	静岡大学
	岡本 隆一	日立オムロンターミナルソリューションズ (株)
	** 梶本 和博	セイコーエプソン株式会社
	金子 美博	岐阜大学
	小林 正	富士通株式会社
	* 近藤 利夫	三重大学
	* 柴田 昌宏	沖ソフトウェア株式会社 中部支社
	杉山 眞	中部電力株式会社
	鈴木 晋	愛知工業大学
	高木 淳	トヨタ自動車株式会社
	* 年岡 晃一	中部大学
	濱川 礼	中京大学
	** 原 一美	NEC ソフトウェア中部
	** 彦坂 佳宣	株式会社デンソー
	古田 修	日本アイビーエム中部ソリューション株式会社
	* 村瀬 洋	名古屋大学
	* 安川 博	愛知県立大学
	* 山本 博章	信州大学
	** 横森 励士	南山大学
	* 吉澤 明芳	萩原電気株式会社
	和田 幸一	名古屋工業大学

(五十音順)

6. 平成19年度事業計画 (案)

6.1 支部総会 平成19年5月10日 (木) 愛知厚生年金会館

6.2 評議員会 3回

第1回 平成19年 5月10日 (木) 愛知厚生年金会館

第2回 平成19年12月中旬 (予定)

第3回 平成20年 5月 (予定) (平成20年度支部総会開催日)

6.3 幹事会 5回

第1回 平成19年 4月 3日 (火) 若竹クラブ

第2回 平成19年 6月11日 (月) 予定

第3回 平成19年10月中旬 (予定)

第4回 平成19年12月上旬 (予定)

第5回 平成20年 1月中旬 (予定)

6.4 支部大会 (電気関係学会東海支部連合大会として)

期 日：平成19年9月27日 (木)、28 (金) 2日間

会 場：信州大学

主担当学会：電気学会東海支部

6.5 講演会 主催7回

(1) 平成19年5月10日 (木) 特別講演

演題：「ソフトウェアロボット—計算ロボット学」

講師：田中 穂積^{ほづみ} 氏 (中京大学情報理工学部情報知能学科 教授)

於：愛知厚生年金会館

※上記他6回開催予定

6.6 研究会 随時

6.7 学生研究発表会助成

申請対象者：情報処理学会東海支部会員

助成対象：平成19年3月1日～平成20年2月28日の間に開催される研究発表会
応募要領

前期：助成対象発表会：平成19年3月1日～平成20年8月31日の間に
開催される研究発表会

応募期間：平成19年2月1日～2月28日)

後期：助成対象発表会：平成19年9月1日～平成20年2月28日の間に
開催される研究発表会

応募期間：平成19年8月1日～8月31日

6.8 学生論文奨励賞

募集期間：平成20年1月上旬～3月上旬

選定委員会：平成20年4月中旬

表彰式：平成20年5月 (通常総会)

6.9 幹事の業務分担について

業務別担当

- ・副支部長：（支部長のサポート）
- ・総括担当：（幹事の取りまとめ、会議資料（案）チェック、事務局補佐）
本谷幹事、菱田幹事
- ・庶務担当：（総務、議事録作成）
山村幹事
- ・会計担当：（会計管理・事務局監督員）
内藤幹事、高木幹事
- ・学生担当・理科系教育支援WG担当：
荒木幹事
- ・講演会担当：（講演会開催取りまとめ）
菱田幹事
- ・ホームページ担当：（ホームページ掲載・イベント会員案内）
高木幹事
- ・連合大会常任担当者：本谷幹事・山村幹事

7. 平成19年度予算（案）

7.1 収入の部

（単位：円）

収入科目	平成18年度		平成19年度
	予算額	決算額	予算額
交付金	3,020,000	3,020,000	3,100,000
(支部交付金)	2,540,000	2,540,000	2,540,000
(賛助金還元)	480,000	480,000	560,000
利息	50	1,850	2,000
前年度繰越金	2,324,421	2,324,421	2,094,416
計	5,344,471	5,346,271	5,196,416

7.2 支出の部

（単位：円）

支出科目	平成18年度		平成19年度
	予算額	決算額	予算額
1. 事業費	1,600,000	1,415,718	1,680,000
年次総会費	470,000	416,831	460,000
講演会・研究会費	280,000	248,522	280,000
支部連合大会費	300,000	285,221	340,000
支部表彰費	140,000	159,252	170,000
支部助成金費	120,000	40,560	120,000
会議費	290,000	265,332	310,000
2. 事務費	1,890,000	1,836,137	1,890,000
通信費	30,000	24,150	30,000
消耗品費	30,000	5,482	30,000
郵便運搬費	10,000	9,058	10,000
雑費	30,000	8,247	30,000
事務委託費(法人契約)	1,790,000	1,789,200	1,790,000
3. 予備費	1,854,471	-	1,626,416
4. 次年度繰越金		2,094,416	
計	5,344,471	5,346,271	5,196,416

8. その他